

議会全員協議会

平成23年度原子力事業所の事業計画概要

・LNGパイプライン埋設工事

8月29日、原子力事業所から平成23年度の事業計画概要について説明を受けました。

独立行政法人日本

原子力研究開発機構

(問) 平成23年度は施設をきちんと復旧させることが今年の事業かと思う。

(答) 通常の状態に戻していくことが今年度の大きな作業。施設の大多数は直して利用運転も年度内には開始したいと考えている。

JIPARCについても年度中には元の機能が見えるぐらいにする。道路など全体的にはあと1年くらいかかると考えている。

日本原子力発電株式会社

平成23年度の東海第二発電所の運転計画は

未定。定期検査は5月21日から約6カ月間。

※定期検査でタービンの翼に破損箇所が見つかり延期される予定。

(問) 飲食物の摂取に

気を使わざるを得ない世界になってきている。これからの計画に東日本大震災の持つている世界的な変化、日本社会における大きな変化が何も考慮されていない。

(答) 原子力事業者として今まで何が足りなかったか真摯に反省し、国の規制の動きを見て適切に対応していきたい。

(問) 今回は3月15日

の午前零時40分に冷温

停止(100℃未満)し3日半掛かった。通常はどのくらい掛かるのか。

(答) 通常は1日半くらいで100℃未満になっている。

(問) 冷温停止になる

までの現場の方の認識はどうだったのか。

(答) 外部電源が全部無くなり、最初の半日はかなり緊張を強いられた状態だった。その後は、正常に動いていた非常用ディーゼル発電機や非常用炉心冷却系で、原子炉圧力の低下や水位の確保、崩壊熱の除去ができたので、福島第一のような事態にはならないと確

信していた。

三菱原子燃料株式会社

加圧水型原子力発電用燃料集合体の製造(456体、196トンU)、化学処理施設(再転換工程)・原料貯蔵所・燃料集合体組立施設・廃棄物管理倉庫の増設のための許認可手続き

東京ガス株式会社

9月22日、東京ガス株式会社から、茨城港日立港区(第5埠頭)のLNG(液化天然ガス)基地と栃木県真岡市までのガスパイプラインを通すプロジェクト(一部東海村を通る)について説明を受けました。

●LNG

毒性の無いメタンガスが主成分である天然ガスを取り扱う。この天然ガスを圧縮してマインス162℃に冷や

すと体積が600分の1の液体になる。これがLNG。LNGは揮発性が高く、もし漏れたとしても急速に蒸発して上空高く拡散してしまう。

●直径約60cmのガス管(鋼)を約90km埋設。

東海村区間は210m。地中13〜22mの深さに管が埋設される。

●ルート

日立LNG基地から国道293号線を通り、常磐自動車道の側道を利用する。日立市、常陸太田市、東海村、那珂市、水戸市を通り、県道51号水戸茂木線に入り真岡市に

抜けていく。

(問) この計画は決定されているのか。工事はいつごろからか。

(答) 東京ガスとしては一昨年の12月24日にプレス発表をした。2015年度中の稼働に努力するとした。来年度から着手したいと考えているが、法的な手続きなどはこれから。

